

# NCS5500 RP-E起動手順

## 内容

### [目次](#)

- [1. BIOSメニューを使用したRP-E USBブート手順](#)
- [2.スタンバイRP-Eの起動](#)
- [3. LCの起動 \( 必要な場合 \)](#)

## 目次

1:Route Processor (RP-E) Universal Serial Bus (USB) Boot Procedure using Basic Input/Output System (BIOS) Menu ([CSCvm77427まで続く](#)) が修正されています。

2:スタンバイRP-Eの起動(CSCvk33106まで) が修正されています。

3 : LC Bringup ( 必要に応じて )

## 1. BIOSメニューを使用したRP-E USBブート手順

この手順は、リリース6.3.1以降 ( RP-Eサポートが導入されたリリース ) で適用されます。

これはシャーシのタイプに固有のものではなく、RP-E固有のシャーシ ( 5504、5508、5516など、RP-Eを使用するモジュラシャーシなど ) に関連しています。

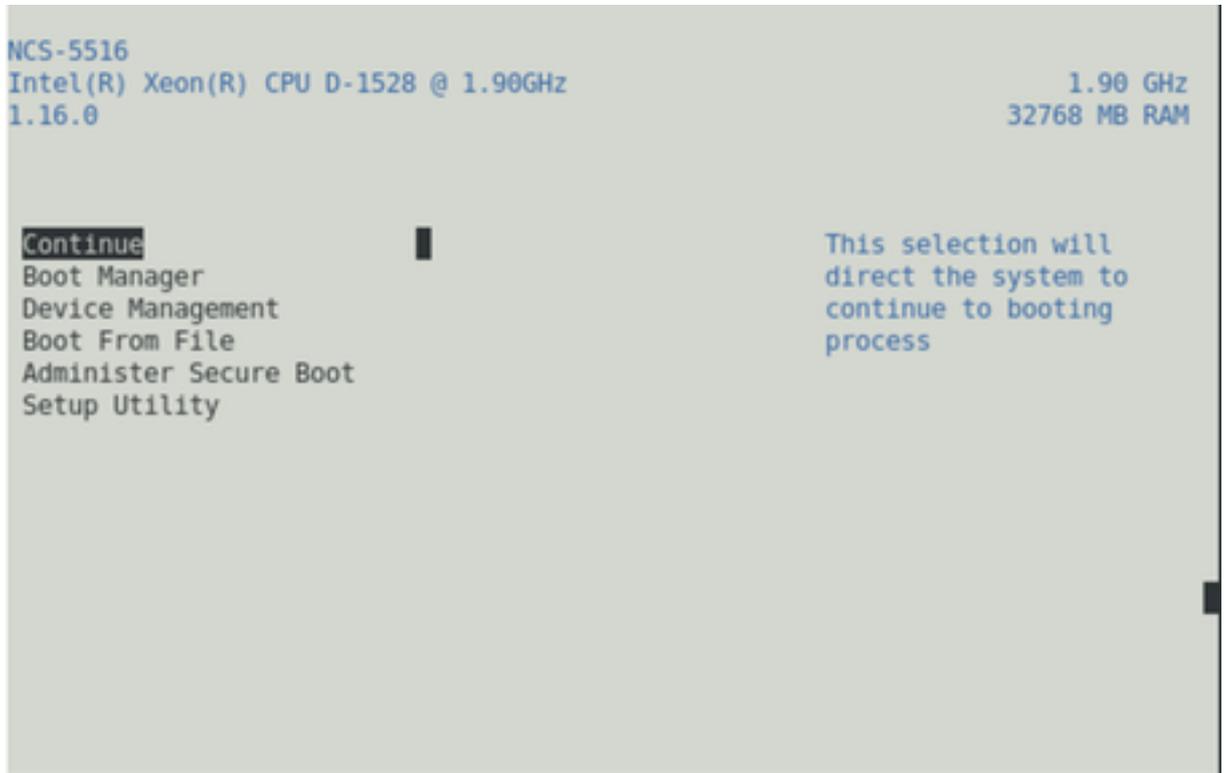
また、固定プラットフォームには適用されません。

ステップ 1 : 次の手順を使用して、USBとイメージを準備[します](#)

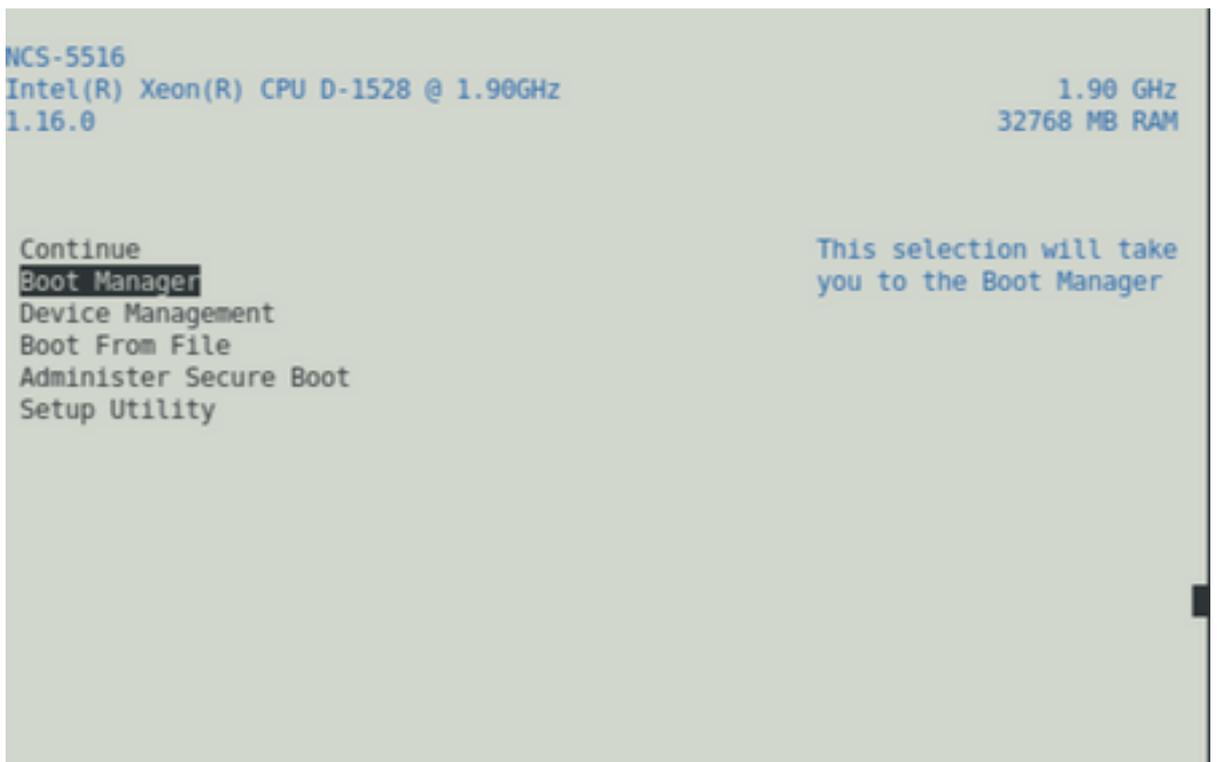
ステップ 2 : また、ファイルのMD5を確認して、内容が同じであることを確認します。

ステップ 3 : USBが挿入された単一のRPシステムで、電源を再投入します。

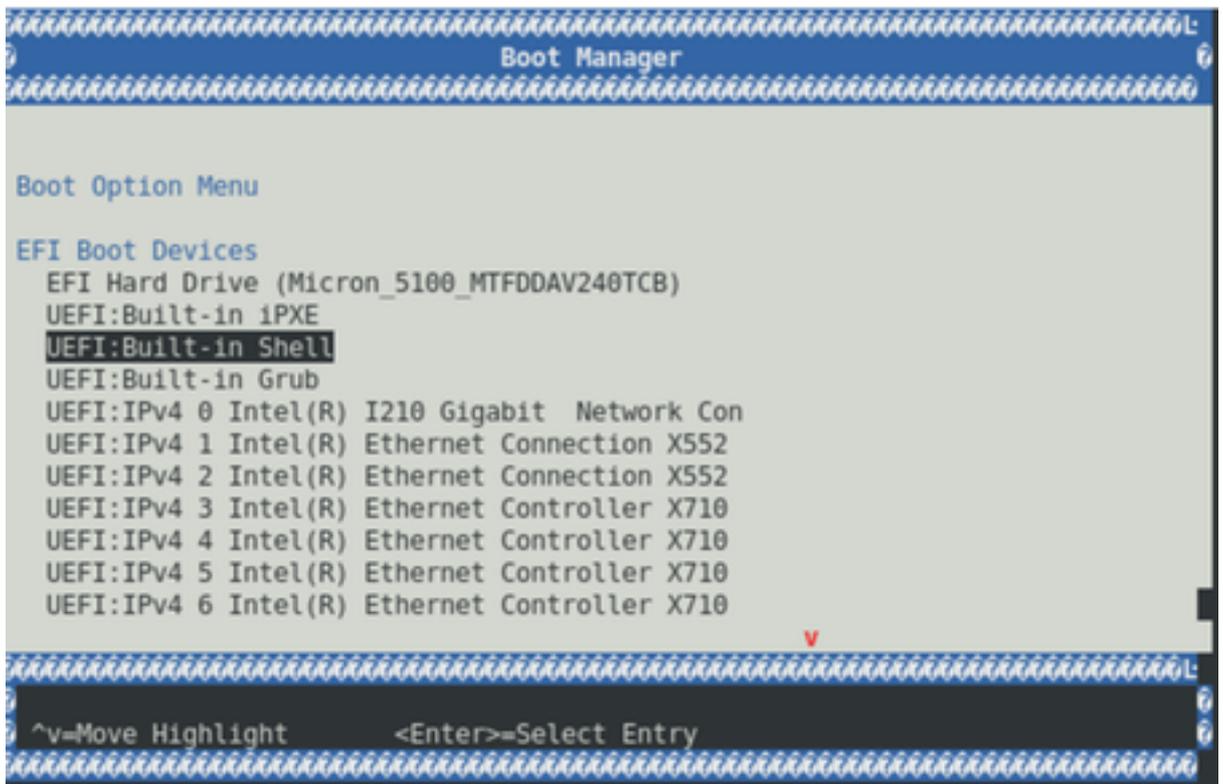
ステップ4:Escキーを押してBIOSメニューに切り替えます。次のような物が見えるだろう。



ステップ 5 : [Boot Manager]オプションを選択し、Enterキーを押します。



ステップ 6 : UEFIを選択 : 以下のメニューの組み込みシエルオプション



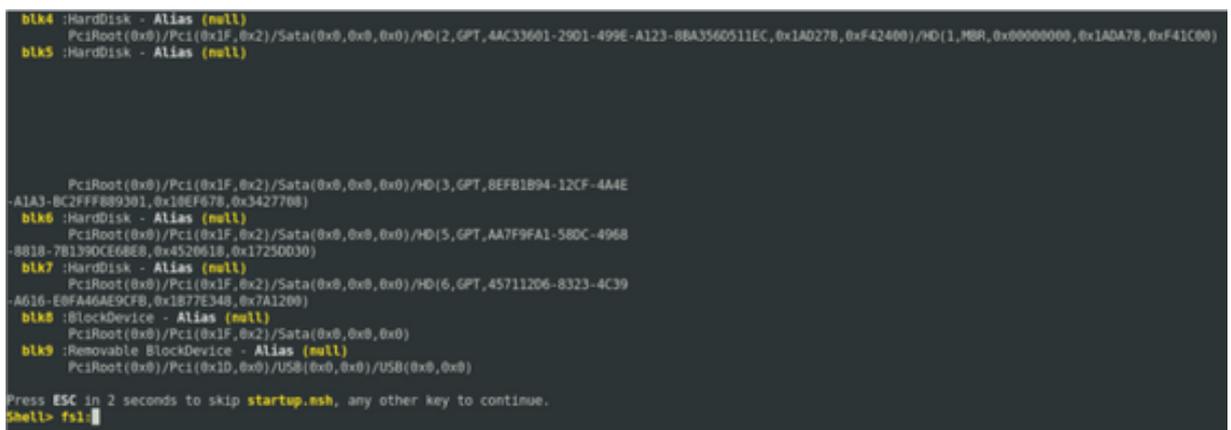
手順 7 : 任意のキーを押してShell>プロンプトにドロップするか、デフォルトでコンソールがシェルプロンプトにドロップします。

\*\* delete/backspaceは機能しません。間違った内容が入力された場合は、Enterキーを押してください。これは現在の手順に影響を与えないためです。

ステップ 8 : 「fs1:」と入力し、Enterキーを押します

\*\* USBが挿入されているスロットに注意してください。次のファイルシステムは異なる可能性があります ( fs0とfs1 ) \*\*

この例では、USBがslot1に挿入されています。



手順 9 : 「ls」と入力して、「boot」と「EFI」の内容を一覧表示します ( スナップショット全体は以下に示します )

手順 10 : cd EFI

ステップ 11 : ls

## ステップ12:CDブート

```
Press ESC in 2 seconds to skip startup.nsh, any other key to continue.
Shell> fsl:

fsl:\> ls
Directory of: fsl:\

    10/03/18  04:05p <DIR>          16,384  boot
    10/03/18  04:05p <DIR>          16,384  EFI
           0 File(s)                0 bytes
           2 Dir(s)

fsl:\> cd EFI

fsl:\EFI> ls
Directory of: fsl:\EFI

    08/28/18  02:43p <DIR>          16,384  .
    10/03/18  04:05p <DIR>           0      ..
    10/03/18  04:12p <DIR>          16,384  boot
           0 File(s)                0 bytes
           3 Dir(s)

fsl:\EFI> cd boot
```

ステップ 13 : 内容をリストすると、grub.cfgとbootx64.efiが表示されます

ステップ 14 : 「bootx64.efi」と入力してEnterを押す。(タブは自動完了に機能)

```
0 File(s)          0 bytes
3 Dir(s)

fsl:\EFI> cd boot

fsl:\EFI\boot> ls
Directory of: fsl:\EFI\boot

10/03/18  04:12p <DIR>          16,384  .
10/03/18  04:12p <DIR>          16,384  ..
08/28/18  02:43p                1,061  grub.cfg
08/28/18  02:43p          915,486  bootx64.efi
          2 File(s)      916,547 bytes
          2 Dir(s)

fsl:\EFI\boot> boot boot
'boot' is not recognized as an internal or external command, operable program, o
r batch file

fsl:\EFI\boot> bootx64.efi

Image Name = \EFI\BOOT\BOOTX64.EFI
Image Size = 915486 Bytes

-----Cisco Secure Boot: Verifying-----
Image verified successfully. Booting..

-----Cisco Secure Boot: End -----

GNU GRUB version 2.00
Press F2 to goto grub Menu..
Booting from USB..
Loading Kernel..
Kernel Secure Boot Validation Result: PASSED
Loading initrd..
```

ステップ 15 : 上記のログに基づいて、RP-EがUSBからブートしています。

ステップ 16 : RPが起動したら、ユーザ名/パスワードを設定し、残りの手順に従います。

## 2.スタンバイRP-Eの起動

ステップ 1 : スタンバイRP-Eをシステムに挿入します ( この例では、RP1が挿入されています )。

ステップ 2 : この手順は、スタンバイRP-Eの状態によって異なります。どちらでも該当する通りにしてください。

注 : 注文によって選択されたイメージがない場合、スペアのRPはデフォルトで最新のイメージとともに出荷されます。

アクティブなRP-Eと同期するには、RP0 sysadminから次のコマンドを実行します。スタンバイがインベントリで検出されたら、次のコマンドを実行します。

RP0 sysadminから次のコマンドを実行して、スタンバイRPを起動します。

```
sysadmin-vm:0_RP0# hw-module location 0/RP1 bootmedia network reload
```

RP1のコンソールを監視して、内部PXEがトリガーされたことを確認できます。これにより、スタンバイRPが起動します。

注：スタンバイRP-Eからイメージが破損または削除された場合は、アクティブRPと同期するか、上記の「BIOSメニューを使用したRP-E USBブート手順」に従ってUSBブートを使用します

### 3. LCの起動 ( 必要な場合 )

ステップ 1：RP0 sysadminから次のコマンドを実行して、ラインカードを起動します。( 0/0など )

```
sysadmin-vm:0_RP0# hw-module location 0/0 bootmedia network reload
```